

人と人 つながりの物語



illustration: Maiko Dake

コープデリグループの組合員数は約530万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。あなたの物語はどんな物語ですか。

長野県で約30年、宅配をご利用いただいていた上倉千代子さんが82歳で亡くなった。

コープデリ中野センターの職員・石井さんは、千代子さんの脱退手続きと、宅配の継続が可能かどうかを尋ねるため、夫である直人さんを訪ねた。

「宅配は妻が全部選んで注文していたんです。注文の仕方もよくわからないけれど、牛乳1本、毎週届くようにしてください」

そういつて直人さんはコープデリ宅配の継続を決めた。

大工だった直人さんと理容師だった千代子さんの結婚生活は約55年。

千代子さんが3歳年上で「大きな声を上げることもないし、みんなに本当にやさしくていい母ちゃんだねって言われていたよ。カレー、麻婆豆腐、煮物にさんぴら……いろいろ作ってくれました」と直人さんは少し寂しそうな笑顔で語る。

上倉夫妻は、1982（昭和57）年から長野県と新潟県の県境にある栄村で、JR飯山線横倉駅の駅長を務めてきた夫婦だった。旧国鉄時代、当時は1日に10往復（現在は8往復）、乗降人数の少なかった横倉駅の管理が民間委託となり、駅の目の前で理容室を営んでいた上倉さんに白羽の矢が立った。当時現役の大工だった直人さんではな

く、千代子さんが駅長になった。それ以来、2人で助け合いながら40年以上、駅を守ってきた。

いつからか夫婦は駅の周りに花を植え始めた。毎年駅の花壇にはたくさんの花が咲き、横倉駅はみんなから「花の駅」と呼ばれるようになった。

「妻も妻のお母さんも花が好きでね。水をあげるのに毎日1時間くらいかかるよ。でもみんなが花を見て、喜んでくれるのは張り合いもあった。宿根草もあるし、2人で種をまき球根も植えて毎年育ててきました」

……………§……………

駅を守ることは容易なことではなかった。直人さんはいう。

「とにかく時間を気にする生活。休みもない。今でこそ慣れたけど、ああ、始発がなかったらまだ寝ていたとか、思ったこともある。泊まりでどこかに行くこともできない。だけど広範囲の人たちが利用している駅だから、毎日いろんな人と会って、顔なじみとちよつとした話をしている。そういう交流ができるのはきつと妻にとっても良かったと思うよ」

2011年3月12日に栄村は震度6強の地震に見舞われた。横倉駅の駅舎は大きく右に傾き倒壊の危険があると判断され取

り壊され、夫妻も店舗兼自宅を失ってしまった。

「避難所生活から飯山へ避難、1年半後には仮設住宅ができて、その後現在の災害復興住宅で暮らし始めました。駅舎は約5カ月後の8月下旬には再建され、飯山から通って駅長としての仕事をしていた時期もありました」
どんな状況下でも、2人は最善を尽くしてきた。

千代子さんを失い、直人さんはこれからひとり駅長を続けなければならぬ。大変だが、駅はいつも千代子さんの姿があった大切な場所だ。

直人さんは最近では、コープデリ宅配の注文の仕方を石井さんから教わって、牛乳以外のものも注文するようになった。食材はもちろん、日用雑貨や花の苗を注文することもある。料理も作る。「自分で作らないと食べられないからね」、そう笑顔で言う。

2人で守ってきた、思い出がたくさん詰まった横倉駅。雪が解けて春が来て、今年も直人さんが植えた種や球根が花を咲かせ、駅を通り過ぎる人たちの心を潤わせている。

過去の物語も
こちらから読めます



あなたのエピソードを
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便（〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛）か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。